

# 目 次

	頁
八ヶ岳にある薬用植物 .....	1
(国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 佐竹元吉)	
八ヶ岳の植物：薬用植物 111種, 特徴的な植物 134種 一覧表	7
(国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 佐竹元吉 李宜融 清里の森管理公社 専務理事 斉藤敬文)	
富士山の薬用植物 .....	15
(昭和大学薬学部 磯田 進)	
薬と食べ物のつながり .....	19
(広島大学医学部附属薬用植物園 神田博史)	
甘草屋敷のカンゾウ復活 .....	25
(大阪薬科大学 草野源次郎)	
山梨の薬用植物 .....	31
(八ヶ岳薬用植物園講師・一風堂漢方研究会 須藤はじめ)	
コケモモ, チョウセンゴミシ, オケラ, アマドコロ, カキドオシ マタタビ, ドクダミ, ゲンノショウコ, センブリ, サンショウ	
〔付録〕 八ヶ岳薬用植物園 植栽植物配置及び順路図	

昭和薬科大学

# 身近な薬用植物 シンポジウム

(平成11年度第4回薬草教室)

対 象：一般市民

開催日および場所：

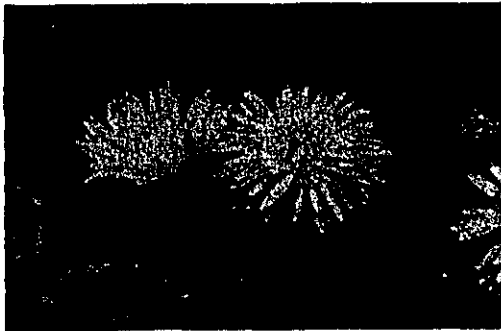
平成11年7月17日(土)

13:00-15:00

講演会 昭和薬科大学記念講堂

15:10-17:00

観察会 昭和薬科大学キャンパス内



主 催：昭和薬科大学  
後 援：東京都

近年、健康に対する関心が高まり、安全性の高い漢方薬など、天然素材に由来する生薬や薬用植物の価値が見直されています。昭和薬科大学がある町田市もかつては自然環境に恵まれた地域でありましたが、年々開発が進み、さまざまな薬用植物、有用植物の自生地が減りつつあります。本シンポジウムは、身近にある薬用植物を再認識し、また氾濫する薬用植物関連情報を分析し、自然と健康について考えることを目的として開催します。

### 講演会プログラム

#### 1. 身近な薬用植物～町田の市の薬用植物～

国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 佐竹元吉

#### 2. 薬用植物に関する最近の話題

～健康食品における薬用植物の利用と薬事法上の問題～

東京都立衛生研究所 課長補佐 安田一郎

### 観察会

#### 講師

国立医薬品食品衛生研究所

東京都立衛生研究所

元昭和薬科大学薬用植物園園長

昭和薬科大学薬用植物園運営委員会委員

佐竹元吉

安田一郎

田中孝治

中村卓造

荒井洋子

増田和夫

北島潤一

萩原幸彦

高野昭人

## 第1回薬用植物に関するワークショップ

### テーマ：アイヌ民族の有用植物とその利用法について

日時：1999年8月21日（土）、22日（日）

主催：薬用植物に関するワークショップ実行委員会

後援：国立医薬品食品衛生研究所 北海道薬用植物栽培試験場、名寄市北国博物館、  
（社）北海道ウタリ協会、旭川アイヌ協議会、名寄市、なよろ野の花の会

対象：一般市民

参加費：無料、事前に参加申込みが必要です（締切 1999年8月8日（日））。

申込先・問合せ先：国立医薬品食品衛生研究所北海道薬用植物栽培試験場

名寄市大橋108 TEL/FAX 01654-2-3605

名寄市北国博物館 名寄市緑丘222 TEL/FAX 01654-3-2575

場所：名寄市北国博物館 講堂

8月21日（土）

講演会

（司会） 北海道医療大学 教授 西部三省 先生  
北海道薬用植物栽培試験場 場長 柴田敏郎

13：00 開会・司会者紹介

13：10～13：40 伝統医薬をめぐる諸問題-世界の流れと日本-  
国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 佐竹元吉 先生

13：40～14：10 アイヌの疾病とその治療法  
北方生薬研究所 所長 木下良裕 先生

14：10～14：40 トリカブトの成分-化学構造、生理作用、修治による変化  
北海道薬科大学 教授 坂東英雄 先生

14：40～14：50 休憩

14：50～15：20 アイヌ民族の薬物の特徴（薬用植物を中心に）  
北見工業大学 教授 山岸 喬 先生

15：20～15：50 名寄地域における植物に関わるアイヌ地名と衣、住への植物利用法  
名寄郷土史研究会 事務局長 鈴木 力 先生

見学会・茶会（野だて）

16：30～18：00 国立医薬品食品衛生研究所 北海道薬用植物栽培試験場  
講師：本間尚治郎（なよろ野の花の会々長、元北海道薬用植物栽培試験場長）  
柴田敏郎  
熊谷健夫（北海道薬用植物栽培試験場室長）  
吉田尚利（北海道大学薬学部薬用植物園助手）  
他に講演者5名

8月22日（日）

薬用植物野外観察会、アイヌ料理の試食  
北海道大学農学部付属雨龍地方演習林第413～417林班（母子里）  
（北海道雨龍郡幌加内町）

9：00～13：00（8：00 名寄市北国博物館集合、定員35名、マイカーの人は現地集合）

講師：本間尚治郎  
杉村 満（旭川アイヌ協議会伝承部長）  
杉村フサ（旭川アイヌ協議会伝承部）  
吉田尚利  
なよろ野の花の会々員

H. 11  
8/24  
名寄新聞

与えて  
特に河  
浄水  
心尿に  
リフト  
を示す  
念き  
。地  
は地  
の生  
ため  
和し  
正に  
進め  
てい  
期間  
に  
なる

「肥金を整備しなければ、  
年間に排せつされる量は  
十六・六、尿四・九」  
窓三十戸、肉牛飼育農家四

められなくなり、屋根と壁  
が必要となる。

下山村PTA連合会主催で  
二十二年前九時三十分か

は、従来、四市の単独組織  
と町村が一本の五組織に分  
としてスター  
地域が広過  
を二分割。キ  
研究大会は、  
までの六市町  
美深地区」  
ことにした。

# アイヌ民族の知恵に学ぶ

## 薬用植物のワークショップ 講演会や野外観察



90人が参加した薬用植物に関する初のワークショップ

【名寄】第一回薬用植物の利用を先人の知恵に学ぶに関するワークショップが二十一日、二十二日の両日、名寄市北国博物館などを開き、アイヌ民族の有用植物とその利用方法についてをテーマに、講演会や野外観察会や薬草についての知識を深めた。

長寿社会の中で、成人病予防への対応が求められている。成人病の予防では、バランスの取れた生活と食事が大切となっているが、医療でも東洋医学が見直されている。そこで薬用植物

の利用を先人の知恵に学び、同時に薬用植物の保護を考えていると、同ワークショップが同ワークショップは、名寄市大橋にある国立医薬品食品衛生研究所北海道薬用植物栽培試験場の柴田敏郎場長が、呼び掛け人代表として実行委員会を組織。初回には、自然保護団体や薬草に関心のある一般市民など九十人が参加。

初日は「伝統医療をめぐる諸問題―世界の流れと日本」(講師・佐竹元吉)立

医薬品食品衛生研究所生薬部長、「アイヌの疾病とその治療法」(同・大下良裕北方生薬研究所長)、「トリカブトの成分―科学構造、整理作用、修治による変化」(同・坂東英雄北海道薬科大学教授)、「アイヌ民族の薬物の特徴」(同・山岸尚北見工業大学教授)、「名寄地域における植物のかかわるアイヌ地名と衣、住への植物利用法」(同・鈴木力多寄市郷土史研究会事務局長)の講演。

「伝統医療をめぐる諸問

# 人の心を聞

家庭生活カウ  
ンセラー講座

【名寄】名寄家庭生活カ  
ウンセラー養成講座説明会

のアメリカ時代」「日本  
の「価値」「この三つの時  
き、女学校に行くため沖  
の「ヨナクニサン」。ま  
に注目されている海底遺  
跡、巨大機軸物が発見さ

# 伝統医薬をめぐる諸問題

## 一世界の薬用植物と日本の薬用植物一

国立医薬品食品衛生研究所  
生薬部長 佐竹元吉

はじめに

北海道の薬用植物とのふれあいは、約35年前の北海道薬用植物栽培試験場での調査研究から始まりました。当時の本間場長、逸見室長と畠山研究員と共に旭川営林局の北海道北部地区採集許可書を持って、採集旅行をしたことが思い出されます。その後数度に渡り、北海道各地の植物を調査し、北海道の植物の分布の特徴と薬用植物の変異を研究しています。

北海道の植物にふれるたびに、薬用植物がアイヌ文化に根ざしているものであることを再認識させられてきました。

古事記の中に薬の神様の誕生の項があり、ここでは蘿摩（ガガイモ）の実の船に乗って出現する表現があります。ガガイモ *Metaplexis japonica* のこの果実をアイヌ語では幌別では *chitsurep-chippo*（ガガイモの小舟）といい、足寄では *hakketek*（帆立貝の貝殻）呼ばれている。これに類似したイケマ *Cynanchum caudatum* はアイヌの人達が重要な薬草として又神聖なものとして敬っている植物があり、その果実も *ikema-chippo*（イケマの小舟）として子供達が遊ぶ道具であると知里真志保氏は書いています。

日本書記では薬の神の誕生は白斂の皮の船に乗って現れたとなっている。白斂はブドウ科のカガミグサ *Ampelopsis japonica* の果皮ではどうみても船は出来そうもありません。もしかすると白斂は白薇の間違いで、白薇はイケマの仲間のフナバラソウ *Cynanchum atratum* で、果皮で船はできそうです。そうすると古事記と日本書記の記載内容がほぼ一致すると思います。かつてはアイヌ文化が本州の多くの地域で浸透し、その結果、日本の最も古い本に薬の神として記載されたのではないかと想像しています。

伝統薬の諸問題としては、我々の日常生活の中で、かつては家庭生活などで自然に身につけていた健康な生活習慣が、急速な核家族化や多国籍文化の導入により、個人の判断で自分で健康を守る情報をいれ、それに基づき、日常生活を送らなければならなくなってきました。特に、身の回りの薬用植物の知恵はいつのまにか非日常的なものになってきています。

漢方薬は化学医薬品では対応が出来ない一部の疾患においては使われてきています。これらの漢方薬の有効性・安全性に関して、3種類の漢方エキス製剤が国が行った医薬品の再評価で有用であると評価されました。しかし、漢方薬が広く使われるにつれ、漢方薬の副作用の報告が集まりだしました。

雨龍演習林413～417林班で観察できる高等植物

羊歯植物 (PTERIDOPHYTA)

トクサ科		Equisetaceae
	1 トクサ	Equisetum arvense
ヒカゲノカズラ科		Lycopodiaceae
	2 ヒカゲノカズラ	Lycopodium clavatum
ゼンマイ科		Osmundaceae
	3 ヤマドリゼンマイ	Osmunda cinnamomea var. fokiensis
ハナヤスリ科		Ophioglossaceae
	4 エゾノフユノハナワラビ	Botrychium multifidum var. robustum
ワラビ科		Pteridaceae
	5 クジャクシダ	Adiantum pedatum
	6 ワラビ	Pteridium aquilinum var. latiusculum
キジノオシダ科		Plagiogyriaceae
	7 ヤマソテツ	Plagiogyria semicordata subsp. major
オシダ科		Aspidiaceae
	8 ヤマイヌワラビ	Athyrium vidalii
	9 エゾメシダ	A. brevifrons
	10 リョウメンシダ	Arachniodes standishii
	11 ミヤマシケシダ	Deparia pycnosora
	12 オシダ	Dryopteris crassirhizoma
	13 シラネワラビ	D. expansa
	14 ミゾシダ	Leptogramma pozoi subsp. mollissimum
	15 イヌガンソク	Matteuccia orientalis
	16 クサソテツ	M. struthiopteris
	17 ミヤマワラビ	Phegopteris connectilis
	18 ホソイノデ	Polystichum braunii
	19 ジュウモンジシダ	P. tripterum
シシガシラ科		Blechnaceae
	20 シシガシラ	Struthiopteris niponica

種子植物 (SPERMATOPHYTA)

裸子植物 (GYMNOSPERMAE)

# 利尻島及び礼文島の植物

参考文献・鶴脇 操 著 北見利尻島の植物 (1941年、札幌農学会報34巻2号)

国立医薬品食品衛生研究所 佐竹元吉、関田節子、李宜融、高橋真理衣、尹永淑、北海道大学薬学部薬用植物園 吉田尚利

199/8/18

鶴脇 操 著 北見礼文島植物概説の植物 (1934年、北海道庁内北海道景勝地協会 昭和9年7月5日)

## PTERIDOPHYTA 羊歯植物門

科名	和名	学名	利尻島	礼文島	8月18日	8月19日	8月20日
Ophioglossaceae	ハナヤスリ科						
	ヒメハナワラビ	<i>Botrychium lunaria</i> L.	○	▲			
	ヤマハナワラビ	<i>Botrychium robustum</i> Underw.	○	▲			
	ハナヤスリ	<i>Ophioglossum vulgatum</i> L.		▲			
Hymenophyllaceae	コケシノブ	<i>Hymenophyllum wrightii</i> V. Bosch	○	▲			
	クジャクシダ	<i>Adiantum pedatum</i> L.	○	▲			
	トラノオシダ	<i>Asplenium incisum</i> Thunb.	○	▲			
	メシダ	<i>Athyrium melanocephalus</i> Christ	○	▲			
	オオメシダ	<i>Athyrium pterorachis</i> Christ	○	▲			
	ヤマイヌワラビ	<i>Athyrium vidalii</i> Nakai	○	▲			
	ヘビノネゴサ	<i>Athyrium yokoscense</i> H. Chr.	○	▲			
	イハガネゼンマイ	<i>Coniogramme intermedia</i> Hieron.	○	▲			
	リシリシノブ	<i>Cryptogramme crispa</i> R. Br. var. <i>japonica</i> Miyabe et Kudo	○	▲			
	オクヤマシダ	<i>Dryopteris amurensis</i> H. Chr.	○	▲			
	シラネワラビ	<i>Dryopteris austriaca</i> Woytnar, Schinz et Thell.	○	▲			
	オシダ	<i>Dryopteris crassirhizoma</i> Nakai	○	▲			
	ナガハノシラネワラビ	<i>Dryopteris dilatata</i> A. Gray, var. <i>oblonga</i> Takeda	○	▲			
	ミヤマシダ	<i>Lunathyrium pycnosorum</i> Koidz.	○	▲			
	イヌガンソク	<i>Matteucia orientalis</i> Trev.	○	▲			
	クサソテツ	<i>Matteucia struthiopteris</i> Todaro	○	▲			
	クサソテツ	<i>Matteucia struthiopteris</i> Todaro		▲			
	コウヤワラビ	<i>Ocotelea sensibilis</i> L.		▲			
	ミヤマワラビ	<i>Phegopteris polypodioides</i> Fee	○	▲			
	コクニワタリ	<i>Phyllitis scolopendrium</i> Newm.	○	▲			
	エリシダ	<i>Polypodium vulgare</i> L.	○	▲			
	ホソイノデ	<i>Polystichum braunii</i> Fee, var. <i>Pursnii</i> Fernald	○	▲			
	ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterion</i> Presl.	○	▲			
	ワラビ	<i>Pteridium aquilinum</i> Kuhn, var. <i>japonicum</i> Nakai	○	▲			
	ヒメシダ	<i>Thelypteris palustris</i> Schott, var. <i>pubescens</i> Fernald	○	▲			
	オオバシヨリマ	<i>Thelypteris queipaertensis</i> Ching	○	▲			
	ミヤマイワデンダ	<i>Woodia ilvensis</i> R. Br.	○	▲			



# 薬用植物シンポジウム

## 薬用植物園と癒し

### 講演会と観察会

日時：9月4日(土) 雨天決行

場所：広島大学 医学部 廣仁会館， 附属薬用植物園

対象：一般市民(参加無料) 約300名入場可能

### 講演会 13:00-15:10 広島大学 医学部 廣仁会館にて

1. 薬用植物園の使命 - 絶滅危惧種と薬用植物 -  
広島大学名誉教授, 元宮島自然植物実験所 関 太郎
2. 薬と食べ物とのつながり  
国立医薬品食品衛生研究所 生薬部室長 関田 節子
3. 医療の原点を探る -3月3日は子供の日?-  
金沢大学薬学部附属薬用植物園 教授 御影 雅幸

### 観察会 15:30-16:30 広島大学 医学部 附属薬用植物園内にて

講師 佐竹 元吉(国立医薬品食品衛生研究所)、香月 茂樹(種子島栽培試験場)  
吉田 尚利(北海道大)、渡辺 高志(北里大)、磯田 進(昭和大)  
高野 昭人(昭和薬科大)、藤野 廣春(富山医科薬科大)、矢原 正治(熊本大)  
小松 かつ子(富山医科薬科大)、後藤 勝実(京都薬科大)  
三上 幸三(広島ヒコビア会)、神田 博史(広島大)、講演者3名

- シンポジウム世話人 神田 博史・かすみ問答塾 有志
- 後援 日本生薬学会・(社)日本植物園協会・広島大学医学部  
(社)広島県薬剤師会

#### 申込方法

- ◎9月4日参加希望の方は葉書にて8月28日(土)までにお申込下さい。  
葉書により受付完了と致します。折り返し連絡は致しません。  
申込先：〒734-8551 広島市南区霞1-2-3 TEL 082-257-5330  
広島大学 医学部 附属薬用植物園 神田 博史

9月5日(日) 自然観察会 広島県佐伯郡吉和村 冠山周辺  
参加希望者 100名, 問合せ先 吉和村役場(実費参加者負担)  
TEL 0829-77-2111

# 徳島薬用植物 シンポジウム

— 植物で健やかな生活を —

シンポジウム：平成11年9月19日（日）

10：00—12：10

徳島大学長井記念ホール

薬草観察会：平成11年9月19日（日）

13：30—16：00

徳島県製薬指導所薬用植物園

眉山西部公園周辺

主催：徳島薬用植物シンポジウム実行委員会

後援：徳島県、徳島県薬剤師会

# 徳島薬用植物シンポジウムプログラム

司会 高石喜久 (徳島大学薬学部)

頁

## 講演会

10:00-12:10

### あいさつ

(徳島県製薬指導所 所長 田原 功)

1

座長 在原 重信 (徳島文理大学薬学部)

### 徳島県の薬草

(徳島県薬草協会元会長 谷 高重)

2

### 薬と食べ物のつながり

(広島大学医学部付属薬草園 神田博史)

5

### 身近な植物と世界の薬草

(国立医薬品食品衛生研究所生薬部長 佐竹元吉)

10

11:40-12:10

### 総合討論

11:40-12:10

司会 (徳島大学薬学部 高石喜久)

徳島県製薬指導所 所長 田原 功

徳島県薬草協会元会長 谷 高重

広島大学医学部付属薬草園 神田博史

国立医薬品食品衛生研究所生薬部長 佐竹元吉

## 薬草観察会

13:30-16:00

講師 佐竹元吉、関田節子 (国立医薬品食品衛生研究所)

神田博史 (広島大学医学部付属薬草園)

村上光太郎 (徳島大学薬学部)

# 徳島県製薬指導所栽培薬草リスト

No.	植物名	科	生薬名	薬用部位	適用
1	アオキ	ミズキ	桃葉珊瑚(トウヨウサンゴ)	新鮮葉	火傷・しもやけ・でき物
2	アオダモ	モクセイ	秦皮(シンピ)	樹皮	下痢止め・消炎・解熱・痛風・洗眼
3	アオツツラフジ	ツツラフジ	木防已(モクボウイ)	木部、根、果実	利尿・鎮痛
4	アカネ	アカネ	茜草根(センソウコン)	根	止血・通経
5	アキカラマツ	キンポウゲ	高遠草(タカトウグサ)	全草	下痢・腹痛・健胃
6	アキノキリンソウ	キク	一枝黄花(イッシオウカ)	全草	消炎・解毒・鎮痛薬
7	アケビ	アケビ	木通(モクツウ)	つる性の茎	利尿・鎮痛・通経・消炎・排膿
8	アジサイ	ユキノシタ	紫陽花(シヨウカ)	花、葉	解熱
9	アスナロ	ヒノキ		葉	肝炎・解熱
10	アネモネ	キンポウゲ		汁液	抗菌・殺菌作用
11	アマチャ	ユキノシタ	甘茶(アマチャ)	葉	甘味矯味剤
12	アマチャヅル	ウリ		葉	健胃・喘息・リウマチ
13	アマドコロ	ユリ	萎ズイ(イズイ)	根茎	強精・滋養強壮・打撲傷・胃潰瘍・胃炎
14	イ	イグサ	燈心草(トウシンソウ)	茎	利尿・不眠・解熱・鎮静剤
15	イタドリ	タデ	虎杖(コジョウ)、虎杖根(コジョウコン)	根	緩下・利尿・通経・鎮咳・じんま疹
16	イチイ	イチイ	一位葉(イチイヨウ)	葉	利尿・通経・糖尿病
17	イチジク	クワ	無花果(ムカカ)	果実、乳液、葉、茎	いぼ・痔・緩下・咽喉痛
18	イチビ	アオイ	ケイジツ、ケイマ	種子、全草	利尿・緩下・でき物・催乳薬・中耳炎
19	イヌザンショウ	ミカン	崖椒(ガイショウ)	葉、果実	鎮咳・鎮痛・打撲傷・捻挫・むち打ち症
20	イヌタデ	タデ	馬寥(パリオウ)	全草	回虫駆除・下痢による腹痛・皮膚病
21	イヌホオズキ	ナス	龍葵(リュウキ)、龍葵子(リュウキシ)	全草、果実	解熱・解毒・打撲症・消腫薬として各種の でき物
22	イノモトソウ	イノモトソウ	鳳美草(ホウビソウ)	全草	解熱・止血・消腫・解毒
23	イボタノキ	モクセイ	チュウハクロウ(イボタ蠟)	イボタカイガラムシの蠟	イボとり・止血・利尿・強壯
24	ウイキョウ	セリ	茴香(ウイキョウ)	果実	芳香性健胃・去痰・駆風薬

科名	和名	学名
Apocynaceae	キョウチクトウ科	テイカカズラ Trachelospermum asiaticum (Sieb. et Zucc.) Nakai
Aquifoliaceae	モチノキ科	イヌツゲ Ilex crenata Thunb.
Araceae	サトイモ科	ウラシマソウ Arisaema urashima Hara
Araliaceae	ウコキ科	ヤツデ Fastia japonica (Thunb.) Decne. et Planch.
		キツタ Hedera rhombea (Miq.) Bean
Aspidiaceae	オンダ科	コバノカナワラビ Arachniodes sporadosora Nakaïke
		ヤブソテツ Cyrptomium (falcatum Presl.)
		オニヤブソテツ Cyrptomium falcatum Presl
		ベニシダ Dryopteris erythrosora O. K.
		オオベニシダ Dryopteris hondoensis Koidz.
		オクマワラビ Dryopteris uniformis Mak.
		オオイタチシダ Dryopteris varia O. K. var. hikonensis Kurata
		イノデ Polystichum polyblepharum Presl
Caprifoliaceae	スイカズラ科	スイカズラ Lonicera japonica Thunb.
		サンゴジュ Viburnum awabuki K. Koch
Caryophyllaceae	ナデシコ科	コハコベ Stellaria media (Linn.) Villars : Alsine media Linn.
Compositae	キク科	ハルノノゲシ Sonchus oleraceus Linn.
Elaeagnaceae	グミ科	ツルグミとナワシログミの中間型 Elaeagnus glabra Thunb. × Elaeagnus pungens Thunb.
Ericaceae	ツツジ科	モチツツジ Rhododendron macrosepalum Maxim.
Gramineae	イネ科	ササ類 (ミヤコサザ? 葉の幅が狭い) Sasa nipponica (Makino) Makino ?
Labiatae	シソ科	ジュウニキランソウ Ajuga mixta Makino
Lardizabalaceae	アケビ科	ミツバアケビ Akebia trifoliata (Thunb.) Koidz.

種子島薬草園の植物

佐竹元吉 李宜融 吳貴華  
香月茂樹 鏑木絃一

4/5/1999

科名	和名	学名
Ananaceae アナナス科	サルオカセモトキ	Tillandsia usneoides L.
Araceae ウコギ科	フカノキ	Scheffera octophylla Harms
Burseraceae カンラン科	カンラン	Canarium album Raeusch.
Caprifoliaceae スイカズラ科	ハクサンボク	Viburnum japonicum Spreng.
Celastraceae ニシキギ科	カート	Catha edulis Forsk.
Compositae キク科	スイゼンジナ	G. bicolor DC.
	ギヌラ	Gynura aurantica DC. ?
Iridaceae アヤメ科	オオジシバリ	Ixeris debillis A. Gray
Labiatae シソ科	アカネスイセン	Eleutherine Herbert nom. conserv. E. americana
	コバノタツナミ	Scutellaria indica var. parvifolia Mak.
	マルバニツケイ	C. daphnoides S. et Z.
	ヒロハヤブニツケイ	C. durifruticeticolum Hatsuma
	シナノキ	Cinnamomum camphora Sieb.
	ニツケイ	Cinnamomun loureirii Ness
	ハマビワ	Fiwa japonica Gmel
Leguminosae マメ科	ヤハズエンドウ	Kummerowia stricta Schindler
Liliaceae ユリ科	サツマサンキライ	Smilax bracteata Presl
	コウシユウウヤク	Cocculus laurifolius DC.
	ハスノハカズラ	Stephania japonica Miers
Moraceae クワ科	カカツガユ	Cudrania cochinchinensis Masam. et Kudo var. gerontogea Kudo et Masam.

# 第2回薬用植物シンポジウム

13:00開演—17:00閉会

総合司会●吉川孝文  
北里大学薬学部教授(同付属薬用植物園園長)

進行●高野昭人  
昭和薬科大学薬用植物園園師

開会挨拶●山口秀夫  
財団法人相模原市みどりの協会理事長

●日本の香料植物について  
佐竹元吉 国立医薬品食品衛生研究所生薬部長

●ヒマラヤの香料植物について  
渡辺高志 北里大学薬学部付属薬用植物園助手

●暮らしの中のハーブ  
高山恵美子 ハーブ研究家

●スパイスの科学  
北島潤一 昭和薬科大学助教授

●日本で育つハーブ  
香月茂樹 国立医薬品食品衛生研究所  
種子島薬用植物栽培試験場場長

●質疑応答

閉会挨拶●吉川孝文  
北里大学薬学部教授(同付属薬用植物園園長)

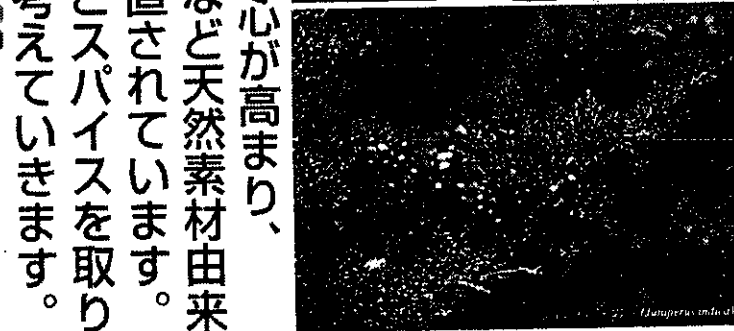
●北里大学相模原キャンパスL3号館4F409  
対象●一般県民および大学生(参加無料) 参加定員●400名

# 1999/10/2 Sat

13:00—17:00

近年、健康に対する関心が高まり、安全性の高い漢方薬など天然素材由来の生薬や薬用植物が見直されています。今回は身近なハーブとスパイスを取り上げ、人々の健康について考えていきます。

# 「ハーブとスパイスを 知ろう」



●共催  
北里大学薬学部  
昭和薬科大学  
相模原市  
財団法人相模原市みどりの協会

●後援  
神奈川県  
日本生薬学会  
社団法人日本植物園協会

●シンポジウム世話人  
川口基一郎、渡辺高志  
北里大学薬学部付属薬用植物園

※シンポジウム当日は、相模原キャンパス内にある北里大学薬学部付属薬用植物園をシンポジウム終了後、17:30まで一般公開しますので、御来園お待ちしております。



# 目 次

○ 薬用植物シンポジウム開催にあたって .....	2
○ 薬用植物シンポジウム開催の主旨 .....	3
○ 講演会プログラム (実施要領) .....	4
○ 講演者の経歴 .....	5
● 「日本の香料植物について」 .....	7
厚生省国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長 佐竹元吉	
● 「ヒマラヤの植物について」 .....	12
北里大学薬学部附属薬用植物園 助手 渡辺高志	
● 「暮らしの中のハーブ」 .....	19
ハーブ研究家 高山恵美子	
● 「スパイスの科学」 .....	21
昭和薬科大学 助教授 北島潤一	
● 「日本で育つハーブ」 .....	23
国立医薬品食品衛生研究所 種子島薬用植物栽培試験場 場長 香月茂樹	
○ 北里大学薬学部附属薬用植物園インフォメーション .....	34
○ 北里大学キャンパスマップ .....	35



# 第1回ブナ林からの恵みシンポジウム

—薬用植物資源の活用と保全—

## 講演会

と き：平成11年10月30日（土）午後2時～5時  
ところ：アグリセンター大宮（京都府中郡大宮町口大野）

- |   |  |       |
|---|--|-------|
| 1 | <b>身近な薬用植物</b><br>厚生省国立医薬品食品衛生研究所 生薬部長         | 佐竹 元吉 |
| 2 | <b>暮らしの中の生薬（きくすり）</b><br>東洋医学会名誉会員・日本植物園協会名誉会員 | 後藤 實  |
| 3 | <b>薬用植物の栽培と育種</b><br>武田薬品工業（株）福知山農場主席部員        | 川西 史明 |
| 4 | <b>食べ物と薬のつながり</b><br>厚生省国立医薬品食品衛生研究所 生薬部室長     | 関田 節子 |

## 屋外観察会

と き：平成11年10月31日（日）午前9時～午後3時  
ところ：大宮町高山周辺のブナ林・宮津市丹後縦貫林道

### テーマ 丹後のブナ林の有用植物

講師

宮津市文化財審議会委員	東山 芳行
厚生省国立医薬品食品衛生研究所	佐竹 元吉
厚生省国立医薬品食品衛生研究所	関田 節子
北海道大学薬学部附属薬用植物園	吉田 尚利
昭和薬科大学附属薬用植物園	高野 昭人
富山医科薬科大学附属薬用植物園	藤野 広春
金沢大学薬学部附属薬用植物園	御影 雅幸
日本新薬株式会社山科植物資料館	秋田 徹
京都薬科大学附属薬用植物園	後藤 勝実
広島大学総合薬学科附属薬用植物園	神田 博史
熊本大学薬学部附属薬用植物園	矢原 正治

主催 ブナ林からの恵みシンポジウム実行委員会  
後援 （社）京都府薬剤師会・（社）日本植物園協会・宮津市・大宮町

## 和名

## 学名

カゼクサ	<i>Eragrostis ferruginea</i>	スズメガヤ属 ( <i>Eragrostis</i> )
チカラシバ	<i>Pennisetum alopecuroides</i>	チカラシバ属 ( <i>Pennisetum</i> )
シロネ	<i>Lycopus lucidus</i>	シロネ属 ( <i>Lycopus</i> )
エンレイソウ	<i>Trillium smalli</i>	エンレイソウ属 ( <i>Trillium</i> )
ウツギ		
タニウツギ	<i>Weigela hortensis</i>	シシウド属 ( <i>Angelica</i> )
シシウド	<i>Angelica pubescens</i>	イノコヅチ属 ( <i>Achyranthes</i> )
イノコヅチ	<i>Achyranthes bidentata</i> var. <i>japonica</i>	
エゾアジサイ		
ミスナ		
アキチヨウジ	<i>Rabdosia longituba</i>	ヤマハツカ属 ( <i>Rabdosia</i> )
メナモミ	<i>Sigesbeckia orientalis</i> subsp. <i>pubescens</i>	メナモミ属 ( <i>Sigesbeckia</i> )
テンナンシヨウ		テンナンシヨウ属 ( <i>Arisaema</i> )
ハイイヌガヤ	<i>Cephalotaxus harringtonia</i> var. <i>nana</i>	
ジュウモンジシダ	<i>Polystichum tripterum</i> (Kunze) Pr.	
シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	
ハナイカダ	<i>Helwingia japonica</i>	
クサアジサイ	<i>Cardiandra alternifolia</i>	クサアジサイ属 ( <i>Cardiandra</i> )
○ ムラサキシキブ	<i>Callicarpa japonica</i>	
マムシグサ	<i>Arisaema serratum</i>	テンナンシヨウ属 ( <i>Arisaema</i> )
○ クロモジ	<i>Lindera umbellata</i>	
キブシ	<i>Stachyurus praecox</i>	
サワフタギ	<i>Symplocos chinensis</i> var. <i>leucocarpa</i> f. <i>pilosa</i>	
ミスヒキ	<i>Antenoron filiforme</i>	
キンミスズヒキ	<i>Rabdosia longituba</i>	

沖縄薬用植物観察会  
具志頭園地遊歩道周辺で観察された植物

日時 平成12年2月5日 午後2時から5時

場所 沖縄県島尻郡志頭村  
国定沖縄戦跡公園具志頭園地遊歩道（探勝歩道）周辺

講師 佐竹元吉（国立医薬品食品衛生研究所生薬部部長）

地形

沖縄本島南端近くの南東側海岸一帯に位置し、平和祈念公園（平和のいしじ）付近から約4kmにわたって石灰岩段丘が続き、海岸から高度70m～80mの急な斜面（崖）を形成している。

公園内遊歩道は、やや緩やかな斜面に位置する自然林内を約500mの行程で海岸まで下がっている。海岸の地形は、陸地側から砂浜が5m～10m、次ぎに隆起珊瑚礁が約50m、その先200m～300mの間はタイトプールなどの発達した珊瑚礁潮干帯、さらにリーフへと続いている。砂浜近くの隆起珊瑚礁は満潮位よりやや高くなり、一帯には隆起珊瑚礁が波により浸食され周囲がノッチとなった大小数個のキノコ岩（マッシュルーム）が見られる。

海岸には休憩所が設置され、休憩所までの車道も整備されている。石灰岩段丘にはいくつかの湧き水があり、その一つが屋富祖井（やふがい）と呼ばれ、古くから地域の生活用水などに利用されている。

植 生

遊歩道内

Schizaeaceae	フサシダ科	
<i>Lygodium japonicum</i> (Thunb.) Sw.		
var. <i>microstachyum</i> (Desv.) Tard. & C. Chr		ナガバカニクサ
Devalliaceae	シノブ科	
<i>Nephrolepis auriculata</i> (L.) Trimen		タマシダ
<i>Nephrolepis biserrata</i> (Sw.) Schott		ホウビカンジュ
Aspidiaceae	オシダ科	
<i>Cyrtomium falcatum</i> (L. f.) Presl		オニヤブソテツ
<i>Thelypteris acuminata</i> (Houtt.) Morton		ホシダ
Aspleniaceae	チャセンシダ科	
<i>Asplenium antiquum</i> Makino		オオタニワタリ
Cycadaceae	ソテツ科	
<i>Cycas revoluta</i> Thunb.		ソテツ
Pinaceae	マツ科	
<i>Pinus luchuensis</i> Mayr		リュウキュウマツ
Piperaceae	コショウ科	
<i>Piperomia japonica</i> Makino		サタソウ
<i>Piper kazura</i> (Choisy) Ohwi		フウトウカズラ
Moraceae	クワ科	
<i>Ficus ampelas</i> Burm. f.		ホソバムクイヌビワ
<i>Ficus microcarpa</i> L. f.		ガジュマル
<i>Ficus superba</i> (Miq.) Miq.		
var. <i>japonica</i> Miq.		アコウ
<i>Ficus vergata</i> Reinw. ex Bl.		ハマイヌビワ
Ranunculaceae	キンポウゲ科	
<i>Clematis grata</i> Wall.		
var. <i>ryukyuensis</i> Tamura		リュウキュウボタンヅル